



東京都中学校図書館研究会会報



令和6年度読書感想文東京都コンクール結果

応募校数：381校 応募総数：59,625作品

賞		作品名	書名	学校名	学年	氏名
(全国推薦) 都最優秀	自由	コロナと未来	この夏の星を見る	杉並区立松溪中学校	3	下河 優那
		「いいたいことがあります!」	いいたいことがあります!	台東区立桜橋中学校	3	越川 茉奈
	課題	希望はどこにありますか	希望のひとしずく	私立海城中学校	2	村橋 路加
		「ありたい自分」を見つける	アフリカで、バックの会社ははじめました	私立東京純心女子中学校	3	梶原 明莉
都優秀	自由	明日がよい日でありますように	川のほとりに立つ者は	墨田区立本所中学校	3	堀江 依世
	課題	「わからない」で大丈夫	ノクツドウライオウ靴ノ往来堂	足立区立第一中学校	2	池田 みづき
		ひとしずくが起こす奇跡	希望のひとしずく	練馬区立開進第三中学校	3	藤田 葵
	自由	言葉で世界を変えよう	本日は、お日柄もよく	私立田園調布雙葉中学校	3	山下 愛菜
		なぜ僕らは働くのか	なぜ僕らは働くのか 君が幸せになるために考えてほしい大切なこと	江東区立深川第七中学校	2	瀧澤 琴莉
	課題	夢と原石	アフリカで、バックの会社ははじめました	荒川区立尾久八幡中学校	3	渡辺 日奈
	自由	ライ麦畑の崖っぷち	キャッチャー・イン・ザ・ライ	葛飾区立金町中学校	3	横田 明憲
	課題	私の希望のひとしずく	希望のひとしずく	品川区立品川学園	2	藤村 和

なお、全国のコンクールにおいて、杉並区立松溪中学校3年下河 優那さんが
全国学校図書館協議会長賞を受賞しています。

令和6年度読書感想画東京都コンクール結果

応募校数：17校 応募総数：231作品

賞	部	作品名	書名	学校名	学年	氏名
優秀賞	自由	自分だけのダンジョン	さみしい夜にはペンを持て	練馬区立石神井西中学校	2	佐藤 日向子
	指定	月明かりの下で	死の森の犬たち	練馬区立石神井西中学校	3	弓山 陽菜乃
優良賞	自由	夢	宇宙に命はあるのか	練馬区立光が丘第二中学校	2	甲斐 さやか
	指定	LOVE KISHIWADA	深海ロボット、南極へ行く 極地探査に挑んだ工学者の700日	多摩市立諏訪中学校	2	渡辺 怜未
佳作賞	自由(次点)	照波	りぼんちゃん	練馬区立石神井西中学校	3	吉永 萌南
	指定(次点)	大空へ	リラの花咲くけものみち	品川区立戸越台中学校	1	藤井 鈴颯
	自由	まぼろし	レーエンデ国物語	練馬区立石神井西中学校	2	宮川 あさな
		妹の日記	5分後に意外な結末 エメラルドに輝く風景	練馬区立石神井西中学校	2	尾崎 華音
		温度	栗と嘘の季節	練馬区立光が丘第二中学校	2	小林 三夏
		決戦前。月夜に吠える。	死の森の犬たち	多摩市立諏訪中学校	1	橋本 葵生
	指定	温もりで咲いた花	夜空にひらく	多摩市立諏訪中学校	2	下田 紗輝
		目線の先	ファオランの冒険6く果てなき青みへ!	練馬区立光が丘第二中学校	2	田中 凜

令和6年度 東京都中学校図書館研究会 夏季研修会の様子

令和6年7月31日(水)に足立区立第四中学校において、東京都中学校図書館研究会夏季研修会が催されました。今年は今年度の課題図書『アフリカで、バックの会社ははじめました 寄り道多め、仲本千津の進んできた道』(さ・え・ら書房)の作者であられる江口絵理先生にお出でいただき、「豊かな感性を育む読書活動のあり方」―執筆者の視点から―というテーマで、ご講演していただきました。

講演のなかでは、江口先生のプロフィールや執筆に至る経緯などをまず伺うことができました。そして「仲本千津」という行動力あふれる、おもしろい人物を多くの読者に伝えたいという思いがとても伝わってきました。将来を考え始める多くの

読者、そして「～なんて」と言われがちな女子や仕事と

して社会問題に取り組みたい若い世代に向けて正確に「仲本千津」を伝えるためにも、ただの偉人伝にしたいくはないという思いをもたれており、伝聞ではない、実体験の言葉や1つの情報ではなく、立体的な話で表現している本になっています。だからこそ、インタビューでは自己開示を徹底し、信頼関係を築くことが大事であると述べておられました。

読書感想文において大切なことは、とにかく最後まで書き上げることであるということをおっしゃっていました。そして、目の前にいる人(内なる読者)に向けて書くことが執筆のこつとのことでした。



令和6年度 東京都中学校図書館研究会 都読書感想画コンクール審査会の様子

令和7年1月10日(金)に読書感想画中央コンクール東京都審査会が行われました。今回で第36回となる読書感想画の審査会ですが、今年度も多くの地区の先生に審査にご協力をいただきました。ありがとうございました。

今年度は応募校数17校で応募総数は231作品となりました。読書感想文に比べ、応募校数は少ないですが、絵の上手な生徒たちにとっては、楽しみながら読書を行い、そこで感じ取ったことを絵として表現できる貴重な場となっています。1月の審査ということで生徒にどのタイミングで取り組ませるかが難しいところですが、夏休みに読書感想文と読書感想画を選択させて取り組ませている学校があったり、美術科の授業で取り組んだものや美術部が描いてくれている学校もあったりしています。ぜひこの会報をご覧ください、来年度はより多くの学校に読書感想画に応募いただきたいと思います。

さて、今回の読書感想画の審査ですが、どの作品も鮮やかに彩られていたり、繊細なタッチで細かな部分まで描写されていたりする作品が多かったように思います。審査の基準として、アニメのような人物描写や人権等の配慮に欠けた作品は選ばれにくい傾向にありますが、今回はそういった作品は少なく、スムーズに審査会が進行できました。



令和6年度各地区活動報告

中央区

I 本年度の活動内容

- ・読書感想文コンクール
- ・各種標語コンクール
- ・各種作文コンクール
- ・区展、都展への書写展示
- ・研究授業
- ・ビブリオバトル

II 成果と課題

例年同様、書写の展示や各種コンクールへの応募を奨励することで、言語活動への関心を高めることができ、各校で入賞作品を表彰することで、次の創作への意欲向上につなげた。研究では、「指導と評価の一体化」を目指して、授業研究を行った。授業研究では、「敦盛の最期―「平家物語」から」(光村図書2年)の読みを通して登場人物である敦盛の心情や武士としての生き様について考えるという指導目標を立て、生徒の変容をどのように見取るのかということについて、協議を行った。現在は、各校代表者によるビブリオバトルに向けて、準備を進めている。

今後も、生徒の言語活動への関心を高めながら、明確な「指導と評価の一体化」を目指して、活動に取り組んでいきたい。

(中央区立晴海中学校 若山 優花)

新宿区

- ・5月8日(水)一斉部会(総会・分散開催)
- ・7月29日(月)夏季国語部研修会開催

上記の研修会では、学校図書館を活用した協働的な学びの実践をテーマに、図書活動が盛んな新宿西戸山中学校で研修を行った。

新宿西戸山中学校で実践している図書委員によるビブリオバトルの様子や図書委員が発案した、3日間の合計貸出冊数をクラスで競う企画について、資料をもとに説明があった。また、図書委員が作ったPOPは、保護者の方や地域の方が来校する2学期の全校行事に合わせて校内展示している。様々な企画を実施しているが、各企画実施中の図書館では、本を読みに来る生徒や本を借りる生徒が増えることがわかった。

「委員の生徒が頑張っているから、図書館に行ってみよう。」という生徒が多い。よって、大人の呼びかけよりも、生徒の声かけのほうが効果的なことがわかる。また、スタンプラリーのような個人での企画も良いが、小集団やクラスなどで協力して競い合うような企画も、図書活動をさらに充実させる取り組みになる。

(新宿区立新宿西戸山中学校 田原 祐美子)



江東区

江東区では「江東区中学校教育研究会 学校図書館部」として活動している。令和6年度は区読書感想文コンクールの開催と審査が主な活動内容だった。

I 本年度の活動内容

4月 一斉部会

7月 領域部会①

・区読書感想文コンクール実施要項説明

9・10月 区読書感想文コンクール

応募・審査（領域部会②）

都読書感想文コンクール作品応募

12・1月 区読書感想文集 作成（領域部会③）

3月 区読書感想文集 公開

II 成果と課題

区読書感想文コンクールの応募・審査は校務LANを活用して実施している。今年度も24校全てが応募・審査に関わり、組織的に運営することができた。また、昨年度まで冊子で配布していた区読書感想文集を今年度からデータでまとめ、より指導に活用しやすい形へと変更した。

都読書感想文コンクール審査会で挙げた課題（本に寄り添った内容、人権に配慮した表現など）を区内で周知し、来年度の指導に生かしたい。また、都読書感想文集・区読書感想文集による読書感想文指導への活用も積極的に呼びかけていきたい。

（江東区立辰巳中学校 田中 まゆ子）

目黒区

本研究会は、区内9校から、主に国語科教員13名で構成されている。昨年度に続いて、利用しやすい図書館づくりの検討と、全国読書感想文コンクールの区予選会を実施している。また、各校の課題を共有して学校図書館の機能とその活用についても協議を重ねている。今年度も業務効率化を目指し、区予選会と、各学校での図書館利活用についての情報交換はオンラインで行った。

今年度は、利用しやすい図書館づくりと読書感想文指導の現状及び課題点を重点的に話し合った。どの学校も、限られた生徒だけでなくもっと開かれた図書館にするにはどうすべきか、そして図書館が中心となって、読書に親しむ機会をどのように提供するか、この2点について対面、オンラインでの活発な情報交換が行われた。貸出冊数が伸び悩んでいる学校図書館の活性化と読書感想文指導を統括して考えていく方向性を確認し、来年度以降も引き続き協議をすすめる予定である。

（目黒区立東山中学校 小林 陽子）



大田区

大田区では教育研究会の図書館教育研究部として活動しています。

I 研究主題

「主体的な読み手を育てる学習・情報センターとしての図書館活動のあり方」

II 本年度の活動内容

- 7月 生徒向け「推薦図書リスト」の作成、全校配布
- 8月 研修会の実施（国語研究部共催）
- 9月 大田区読書感想文コンクール第1回審査会
- 10月 大田区読書感想文コンクール第2回審査会
- 11月 東京都読書感想文コンクール審査会（一次・二次）
- 2月 大田区読書感想文集発行、全校配布
研修会・講演会の実施（国語研究部共催）

III 成果と課題

本区は、「大田区・子ども読書活動推進計画」に基づき、生徒のより良い読書環境作りや読書習慣の育成を目指して継続的に活動している。今後も本活動を充実させ、さまざまな側面から中学生の読書活動を推進していきたい。

（大田区立六郷中学校 木崎 英樹）

豊島区

豊島区では読書週間を設け、各校で期間を決め、朝の読書の時間にブックトークや本の紹介を行っている。主に活動しているのが図書委員や国語科、各校の司書または区内の図書館司書で、中学生向けに読みやすい本や、おすすめの本をジャンルに分けて紹介している。生徒の興味関心はそれぞれ異なるため、あらゆるジャンルから項目をしぼり、多岐にわたって紹介するように各校や各担当が工夫し読書の励行をしている。元々読書に興味のある生徒もそうでない生徒も、ブックトークを通して本に関心を持ち、図書室や図書館に足を運ぶ生徒数も変化している傾向にあるといえる。特に、夏休み前の期間に実施することで、長期休業中に読みたい本の参考になり、関心を寄せる生徒も増え、効果があることがわかる。学期毎に行われるため、ことある毎に本とふれあう機会があり、より良い活動だといえるだろう。豊島区ではこのような活動を例年継続して行うことができている。

足立区

足立区学校図書館部では、本年度の研究主題を「小学校や公立図書館と共に歩むICTを活用しての読書活動の充実と探求型学習の推進」と設定し、足立区教育委員会学校図書館スーパーバイザー藤田利江様によるご講演や、日販図書館選書センターでの選書体験、足立区中央図書館でのビブリオバトルの実践などを行った。

ICTを活用しながら読書活動や探求型学習を推進していくため、より読書に興味を示すような広がりが見られるような教育活動をこれからも引き続き推進していく。

（足立区花保中学校 高柳 大）

板橋区

1 書評座談会

(1) 開催日時 令和6年8月27日(火)
14:00～16:00

(2) 参加生徒数 区内22校中15校より
29名参加(参加は任意)

(3) 招聘作家 濱野 京子 氏
課題図書 『with you』
(2020年 くもん出版刊)

2 読書感想文コンクール

(1) 参加校数 22校、
応募総数 4231作品

(2) 審査会 令和6年10月3日(木)
15:30～16:00 オンライン開催

(3) 特徴 応募総数が、前年度より
1858作品も減少した。

3 読書状況アンケート

(1) 調査期間 令和6年10月15日～
11月15日

(2) 回答数 各校各学年1クラスずつを
抽出、計66クラスより
1584名

(3) 考察

1か月間に、本(電子書籍を含む)を読ん
でいない(読みかけの本もない)生徒は、
14.1で前年より1.1%減少した。

(板橋区立加賀中学校 松本 彰弘)

江戸川区

1 活動目標

(1) 江戸川区読書科の推進
(2) 学校図書館の整備・活用の充実

2 本年度の取り組みと成果

(1) 6月5日(水)
江戸川区中学校教育研究会一斉研究日
○組織作りおよび年間活動計画の確認
○講演会「江戸川区読書科指導の指針と
学校図書館の有効活用について」

江戸川区教育委員会 指導主事 木山 朋江 様

(2) 9月27日(金)
読書感想文コンクール審査会

区内中学生から応募があった読書感想文32
校92作品の中から、特選7作品、優秀賞18
作品、佳作67作品を選出。特選7作品を東京
都読書感想文コンクールへ出品

(3) 2月12日(水) 江戸川区中学校教
育研究会一斉研究日
講演会「情報活用と学校図書館
～学習の広がりと注意点～」

全国SLA学校図書館スーパーバイザー
日本新聞協会 NIEアドバイザー
村山 正子 様

(江戸川区立葛西第二中学校
校長 植木 清)

東京都中学校図書館研究会事務局よりお知らせ

今年度も東京都中学校図書館研究会にご協力を賜りまして、ありがとうございました。

本会では「豊かな心と自ら学ぶ力を育む学校図書館」を研究のテーマに据えて活動しております。主な活動として、読書感想文審査や読書感想画審査、作家の方などをお招きしての夏季研修会の実施を行っております。

そういった審査会の要項や日程などは、今まではその都度交換便や郵送をもってお知らせしていましたが、今年度より新しくホームページを立ち上げて、要項等をダウンロードできるよう整備いたしました。来年度以降もこちらを活用しながら情報を発信してまいりますので、各地区理事の方だけでなく、多くの方にホームページをご覧になっていただきたいと思います。

さて、各地区理事の皆様、いつも事務作業および審査会へのご参加等ありがとうございます。年度が明けると異動に伴い、各地区で地区理事の交代もあるかと存じます。改めて今年度の各地区理事あてに令和7年度の地区理事がどなたになったかのお伺いをさせていただきますので、決まっている場合、ご返答いただけると助かります。また、年度当初の教科外部会等で決まることもあるかと思うので、決まった場合はできるだけ早めに事務局の担当までお知らせください。連絡をいただけない場合、昨年度の地区理事の方宛てに書類等をお送りさせていただきますので、ご了承ください。



特に地区理事が交代になる地区におかれましては、確実に仕事の内容を引き継いでいただきますようお願いいたします。

ところで、本会報ではご覧のとおり、各地区の活動状況を報告いただき掲載しております。お忙しい中、ご執筆いただいた先生方ありがとうございました。各地区の活動状況を共有することで、よりよい学校図書館運営や生徒の読書活動の啓発につながればと考えております。今年度は中央区、新宿区、江東区、目黒区、大田区、豊島区、板橋区、江戸川区からご報告をいただきました。より多くの地区にご協力をいただけると東京都の中学校図書館が活性化していくと思いますので、来年度以降もよろしく願います。

また、各校の読書感想文の指導に役立てられればと、今年度も東京都の審査会で入賞した生徒たちの読書感想文をまとめた「読書感想文集2024」を発行させていただきました。お手元にはすでに届いているでしょうか。ぜひ国語の授業の際に活用していただいたり、学校図書館に置いていただいたりすることで、生徒たちが気軽に手に取り、書き方や構成、読者の引き付け方などを参考にしてくれると嬉しいです。

最後に、東京都中学校図書館研究会では、本会の活動にご協力いただける役員を募集しています。読書感想文指導等の情報交換や各校の学校図書館運営など、勉強になることがたくさんあります。興味のある方は、ぜひ事務局担当の齊藤までご連絡いただけると幸いです。



令和7年3月31日 第125号
発行所 東京都中学校図書館研究会
事務局長在籍校 練馬区関町南 3-10-3
練馬区立石神井西中学校 齊藤 祐介
電話 03 (3920) 1034